学校番号	１０１３

令和２年度　芸術科〔美術〕

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校美術３」　（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科としての美術を捉えるのではなく、卒業してから人生の生涯学習としての「美術」、もっと社会や生活と深い繋がりのあるものとしての「美術」や「表現」を意識して欲しいです。
・視覚、触覚など感じ取った感覚から思考する「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・メディアを考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
・生徒同士が作品を相互に鑑賞（批評）することで、様々な違った視点や考え方を確認することが出来、理解の幅がさらに広がります。

２　学習の到達目標

美術Ⅲでは表現や、知識の多様性を追求することで、自己のイメージに近づけられるよう学びながら制作してゆく。
作品の制作過程のなかで周りから受ける刺激や意見を意識的に感じられるようにする。それらを言語化、文字化し、周りに伝えられるように努める。
現代社会の中での様々な美術文化（表現）に対する理解と関心を引き出してゆく。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	①現代社会、日々の生活の延長として美術を捉える。または自分を見つめる。 ②創造活動を行い、製作過程で達成感や喜びを味わうことでより美術としての文化、鑑賞の関心に繋がる。	①独創性、想像力を働かせ、感じ思考することの必要性。作業のみに留まらず、作業と思考を合わせる事で、「表現」をさせる。 ③発想に多様性を持たせる。	①創造性のある作品表現をするために必要な、技術、知識を身につけ、教材に応じて表現方法を拡げる工夫をしている。 ②作品完成における達成感を得る。	①映像表現や美術作品、またはそれらの作家性や時代背景、文化を感じることで理解する。 ②自分とは違った意見や感想を知る事で理解の幅を持たせる。
評価方法	制作の様子、取り組み方。 鑑賞における、意見や感想。 発言内容	アイデアスケッチ（エスキース） 制作過程の作品 制作時の発言内容 ワークシート	作品制作過程での技術、技能 完成、展示された作品	ワークシート 感想、発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	D		
1学期	表現と選択Ⅲ	【鑑賞】【デザイン】【絵画、彫刻】 ・オリエンテーション 最終学年の、美術「表現」についてⅢ	◎	○	○		a:現代活躍されている作家の様々な表現を知る。 b:美術の歴史と文化について自分との関連性を考える。 C:生涯学習の美術について	学習活動の様子
	素描とデザイン	【絵画】【素描】【デザイン】 ・構造や特徴理解のための靴の素描 ・オリジナルシューズのデザイン製作	○	○	◎	○	ab:モチーフの表現的可能性を観察し考える。 c: 観察して終わりではなく、具体的に作品にすることで、より理解を深める。 d:モチーフが持つ魅力的な特徴やイメージ、角度を発見する。	制作の様子 制作課程 完成作品
	立体構成	【デザイン】【立体】【鑑賞】 ・ダンボールから自己がデザインした靴の製作	◎	◎	○	○	a:作品の主題を考える。 b: 素材の持つ表現の可能性を考え、主題に沿った構成と技術 c:イメージの理解を深める。 d:他者の作品を鑑賞すると共に、そこで得たものを作品に活かす。	制作の様子 制作課程 主題と完成作品
2学期	写真とフォント	【写真】【絵画】【デザイン】 ・タイポグラフィ ・写真	◎	○	◎		ac:文字と写真の表現と可能性について考える。 b:組み合わせや大きさの変化からの発想や構想を深める。	制作の様子 制作課程 完成作品
2学期 3学期	卒業制作	【絵画】【彫刻】【デザイン】 【映像メディア表現】【写真】【鑑賞】 ・自画像としての作品	◎	◎	◎	○	ad:もう一度、自分というものを見つめなおす。そのなかで卒業後の自分というものを重ね合わす中で作品を制作する。 bc:表現方法に関してはそれぞれ話し合う。	制作の様子 制作課程 完成作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想・思考・表現・構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。